

14. 尿路性器系の疾患 (N943)

文献

磯部哲也. 月経前症候群の精神症状に対する鍼治療効果の比較試験. *日本東洋医学雑誌* 2016; 67(3): 264-273. 医中誌 Web ID: 2017003688

1. 目的

月経前症候群 (PMS) の精神症状に対する鍼治療の効果を検証。

2. 研究デザイン

比較試験

3. セッティング

葵鐘会 Bell-net 国際東洋医学センター漢方外来、愛知、日本

4. 参加者

月経前のイライラが主訴で PMS の診断基準を満たし鍼治療を行った患者 30 名と、月経前のイライラを訴える女性の中で PMS の診断基準を満たした施設スタッフ 22 名。

5. 介入

Arm 1: 治療群 30 名 (40 mm 18 号鍼で切皮置鍼 15 分、1 クール=週 1 回・6 回)

Arm 2: コントロール群 22 名 (施術なし)

6. 主な評価項目

治療開始直前に迎えた月経前および 1 クールが終了して迎えた月経前の「イライラ」を含むすべての精神症状に関する心理的ストレス反応尺度 (SRS-18)。SRS 合計点数 20 以上 40 未満の症例を両群から選出して、連続する月経周期での点数の変化率を比較。また、1 クール終了後 1 回目の受診時の質問で「(治療効果に) 満足している」と答えた患者を有効症例とした。

7. 主な結果

選出治療群 17 例 (平均 35.1 ± 4.8 歳、1 回目 SRS 合計平均 29.8 ± 6.5) の治療前後の SRS 合計点数の比率 (改善率) は、選出コントロール群 7 症例 (平均 31.9 ± 7.1 歳、1 回目 SRS 合計平均 29.7 ± 8.2) の 1 回目と 2 回目の比率 (自然変化率) を有意に上回った。治療効果に満足した症例は 73.3% (22/30) であった。

8. 結論・意義

パターン取穴浅刺鍼療法 1 クール (6 回) の施術によって PMS の「イライラ」を含むすべての精神症状が改善することが示唆された。引き続き 1 月経周期につき 1 回の追加施術を行うことによって治療継続期間において 1 クールの施術で獲得された改善率が維持できる可能性も示唆された。

9. 鍼灸医学的言及

弁証による配穴はせず、PMS に対して有効であろうと思われた経穴を書物などから選り出し、伏臥位でしか刺鍼できない経穴を除外して配穴した。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

PMS の諸症状に対してはしばしば鍼治療が試されているが、対照群を設定した臨床研究は国内ではまだ少ない。同程度の SRS 点数だったとしても患者とスタッフの臨床データには別の側面で差異があるかもしれないが、現実の臨床現場で可能な検証方法として工夫をこらした様子がうかがわれる。本研究により少なくとも無治療よりも鍼治療を行ったほうが、患者の満足度が高いことが示された。ただ、身体症状の変化はどうだったのか、それに関連するアウトカムの変化についても是非、今後具体的なデータを取得して示してもらいたい。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.10